



聖書の教えに立つ 広島女学院とSDGs

広島女学院
院長・学長
三谷高康



ご存じのとおり国連が2015年に定めた持続可能な開発目標（SDGs）は17の目標とより具体的な169のターゲットを掲げ、「誰一人も残さない」をモットーに、全世界で実施されています。とりわけ、昨年秋、エジプトのシャルム・エル・シェイクでCOP27（国連気候変動枠組条約第27回締約国会議）が開催され、地球温暖化が生み出す異常気象の防止のため、CO₂排出削減に向けて活発な議論が交わされました。

自然は人間の環境破壊に対して脆弱であることは長年にわたり指摘されてきましたが、これほど深刻化すると取り返しがつかなくなります。

自然と人間の関係を考えますと、興味深いことに気づきます。

それは創唱宗教の祖たちにとって彼らの人生の重大な局面が人工的な「家」の中で起こらなかったことです。

イエスの生涯をたどると、誕生はベツレヘムの宿屋の一室ではなく粗末な馬小屋でした。そこは人間ではなく家畜の住処であり、いわば動物と人間の接点のような空間でした。彼が洗礼を受けたのはヨルダン川でした。生死をかけた祈りはゲッセマネの園といわれる果樹園、つまり屋外でした。息を引き取ったのはゴルゴダの丘に立てられた十字架上でした。彼の人生の重要な節目は「家」の中ではありませんでした。

釈迦牟尼の人生にも同様のことが言えます。

生まれたのはルンビニ（藍毘尼）の花園でした。悟りを開いたのはブッダガーヤの樹の下でした。そして、入寂はクシナガラ果樹園でした。彼の生涯もまた、重要なシーンは「家」の外で起こったのです。

イスラム教の創始者であるムハンマドも神のメッセージを天使ジブリールから伝えられたのは、ヒーラ山の洞窟の中であり、妻ハディースの邸宅の客間ではなかったのです。

これらのことは私たちに何を語っているのでしょうか。

彼らの人生の大切な場面は、人間の世界と自然のいわば接点のような所で生じた。つまり、二つの世界の境界線で起こったということです。

これらのことから、人間だけを大切にすることを越えて、自然と共存する道を、創唱宗教の祖たちは2000年前から説き続けて来たのでした。

「宗教」を英語ではreligionですが、この言葉はもともとラテン語のRELIGIOから派生したと言われてます。RELIGIOは「ふたたび」という意味の接頭辞 RE- と「結びつける」という意味の LIGARE が結合して「再び結びつける」という意味の言葉です。宗教とは分裂した二つの世界を再び結びつける、つまり、人間と自然を再び結びつける和解の教えなのです。まさに、21世紀の私どもが求めてやまない生き方です。

聖書の教えに立つ広島女学院では、SDGsをわざわざ全面に押し出すというより、長年にわたって既に大学、中高、幼稚園において、例えば平和教育や性差別、貧困問題など、SDGsの多くの目標をカリキュラムに組み入れてきたことを再確認したいと思います。その視点から、今回の学院報では敢えて全学院のSDGsの取り組みを紹介するものです。ご一読ください。

SDGsとは

持続可能な開発目標 (SDGs: Sustainable Development Goals) とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標 (MDGs) の後継として、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない (leave no one behind)」ことを誓っています。

(引用: 外務省ホームページ)

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



中高のSDGs Oleander Program 一日米韓高校生交流事業 — グローバル教育推進部長 野中 理恵

本プログラムを主催するOleander Initiativeは、アメリカの非営利組織であり、2016年から主に中東や米国、欧州の教員やNGO職員等を対象に「ともに学び、平和を構築する」という理念のもと、広島での研修を実施しています。これまで14カ国からの参加があり、戦後復興を遂げた美しい街、広島で学び、自国に戻って子どもたちに「未来には希望がある」ということを伝える活動をおこなってきました。米国政府をはじめとする様々な団体がこのプログラムのポテンシャルや実績を認め、活動資金を援助しています。また、広島女学院中学高等学校は組織発足当初よりこの研修に協力をしています。(高校生による碑めぐり案内や交流会など)

Oleanderとはキョウチクトウ(夾竹桃)のことで、原爆で被災した後、「70年間は草木も生えない」と言われた広島市の焦土にいち早く咲いた花です。市民に復興への希望と光を与えてくれたこの花は、原爆犠牲者への慰霊もこめて1973年に広島市の花に選定されました。

Initiativeは日本語でも「イニシアチブをとる」と使われ、主導権を握るなどの意味で用いられます。もともとはラテン語initium「始まり」からきています。希望のある未来を創り出すために、自分にできることを始める第一歩との願いが込められているように思います。

今回の研修はOleander Initiative初の高校生対象プログラムで、構想から3年をかけて今年ようやく実現することになりました。日本からは本校高1、高2の生徒計6名、アメリカからはオレゴン州の高校生5名、韓国からは忠南外国語高校の生徒6名が参加しました。

11月8日~14日のプログラム第1部では、アメリカと韓国の生徒が広島を訪れ、本校での交流会、ホームステイ、平和資料館の見学、碑めぐりなどを経験しました。

14日には日米韓の参加者全員で韓国へ移動し、ホストファミリーの温かい歓迎の元、プログラム第2部をスタートさせました。4日間の滞在中は、忠南外国語高校で日本についてのプレゼンテーションを行ったり、またソウルでアメリカ大使館を訪問したり、市内観光をするなど、日本ではできないことを体験しました。

この研修を通して、参加者たちは互いの文化について学び、親睦を深めたのはもちろんのこと、「平和とはなにか」を共に考えることができました。これからも交流を続け、それぞれの場所で、Peacebuilder(平和を創る人)としての歩みを進めてほしいと願っています。

以下、本校参加生徒の感想を紹介します。

- 私の家にホームステイしたアメリカの生徒が、アメリカでの原爆についての価値観などを教えてくれました。彼女の学校で、原爆が正しかったかについてのアンケートではやはりYESのほうが多かったそうです。また、友達の中には最初はYESに入れていたけれど、後で広島について勉強するとNOに変わった人もいたと言っていました。このことから平和学習は様々な側面から勉強しないと、本当に意味のあるものにはならないと思いました。実際に現地の資料館に足を運ぶからこそ学べるものもあることがわかりました。



碑めぐり

- 韓国で訪問した高校の階段に「独島は私たちのものだ」と書いてあり、日本語専攻がある学校でもこのように書いてあるのは驚きでした。韓国の生徒が私に「こんなものを見せてごめんね」と言いました。私達同士は仲良しなのに国同士の関係がよくないのはとても辛くて残念だと思いました。世代交代するごとに反日・反韓はなくなっていくと思うけど、それは忘れ去られるということではなく理解した上で仲良くなって反日・反韓がなくなればいいなと思いました。



韓国にて

- このプログラムに参加したことで、違う文化を持つ人と関わり様々な話ができたことは自分のこれからの生活や将来にとってとても良い経験になったと思います。実際に韓国語や英語でコミュニケーションをとったり、ネイティブの発音を聞いたり使い方次第で単語のニュアンスが変わることを間近で見れたことはとても良かったです。この経験を将来にも生かしていきたいです。

大学のSDGs 着物リメイクプロジェクト「HJUきものリメイクラボ」

生活デザイン学科 檜崎 久美子

生活デザイン学科では2021年4月から一般社団法人ひろしまきもの遊びと連携し、古着となった着物をリメイクして、若者向け商品を企画・制作・販売するプロジェクトを開始しました。メンバーは「地域連携デザインセミナー」の履修者を中心に、2022年度後期は17名で活動しています。

本プロジェクトはSDGs12「つくる責任、使う責任」の中の「12-5 2030年までに、廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する。」というターゲットを背景に活動しています。つい100年ほど前には着物は日常着でしたが、現在は浴衣の着方もわからないという若者も少なくありません。そして、たくさんの着物を死蔵服として持っている高齢者もかなりの数がいるといわれています。着物は捨ててしまえば焼却され、CO₂を排出するだけのゴミになります。資源ごみで出したとしても、無感情に繊維に戻され、フロスになるだけです。しかし、着物は普通の洋服以上に着ていた人の想いがこもった服です。さらに、糸をほどこき、洗いなおせば四角い布になり、そこから他のものに作り直し、本当のボロになるまで使い倒されてきた、日本人の衣生活を支えたものです。捨てるなんて本当にもったいないことです。このような考えから、連携先であるひろしまきもの遊びでは着物交換会やレンタルなどで寄贈された古い着物を活用されていました。しかし、捨てられる着物たちを救っていくには、もっと多くの、特に若い世代に着物の良さを伝え、着物に触れてもらうことが重要だと考え、本学科にお声がけいただき、連携に至りました。

2021年度は対面やオンラインでのミーティングを重ね、商品企画を行い、トートバッグと巻きスカートを提案、制作し、11月に広島市内のイベントで委託販売をしました。2022年7月には広



あやめ祭での販売の様子

島市内のイベントにて学生も参加しての実売を行いました。同時に2022年度の商品企画も行い、ミニポーチとつけ襟を制作、メンバーによるInstagramでの広報も開始し、11月のあやめ祭でも模擬店ブースにて、実売を行いました。

プロジェクト当初から参加し精力的に活動した中森優さん(4年)によると、制作を通じ、手洗いし、糸をほどこき、布に戻せばまだまだ活用できる資源であること、古いものでも魅力的な色や柄があることなど、新鮮な驚きがあったようでした。また、実売イベントでも着物を日常的に着こなす方々との出会いや、着物に関わる小物販売ブースや和の文化を体験できるブースなどを目にする中で、これまで馴染みのなかった、時代や世代を超える着物文化の深さと楽しさに触れる機会にもなったようです。

この活動を通じ、若い世代の衣服の廃棄に対する考え方の変容ができればと思います。

大学のSDGs SDGsマンガ図書室がオープンしました

図書館長 三木 幹子

2022年7月12日(火)、図書館ジョイフルcommons(図書館1階)に「SDGsマンガ図書室」がオープンしました。SDGs活動の一環として、自宅に眠っているマンガ本(コミック)を有効活用し、日本が誇るマンガ文化の資料を収集・保管し、若い世代に伝えていくことを目的として企画しました。6月に大学教職員を対象にマンガ本の寄付を募った結果、約2,000冊の本が提供されました。寄付をしていただいた本学教職員のみならず、ありがとうございます。マンガ図書室の準備に関しては、図書館広報学生スタッフチームLibris(リブリス)の学生たちが頑張ってくれました。マンガ図書室の準備からオープンまでの過程をまとめた動画を、図書館のYouTubeチャンネルから視聴できます。QRコードのリンクからご覧ください。

昭和から平成の個性的で面白いマンガ本がたくさん置いてあります。マンガはその時代の風俗・文化・習慣等を知るための貴重な資料です。また、読者層である若者が、どのような価値観やライフスタイルを持っていたかを知る手掛かりとなります。学生のみならずには、マンガを通して、お父さんお母さん世代や、お祖父ちゃんお祖母ちゃん世代等、年代が異なる人々の青春時代の文化や考えを理解してもらいたいと思っています。4年次の卒業論文の執筆にもぜひ活用してください。また、この知識は、社会に出てからの仕事における対人関係やコミュニケーションの場でも役立てると思います。みなさまのご利用をお待ちしています。



SDGs マンガ図書室

<SDGsマンガ図書室の利用方法>

利用時間：図書館開館時間と同じ

利用ルール：

- ・マンガ図書室は土足厳禁です。入り口で靴を脱いでお上がりください。
- ・コミックは全て禁帯出です(貸し出しはしません)。マンガ図書室(ジョイフルcommons)内で読むことができます。マンガ図書室から持ち出して館内で読むこともOKです。
- ・読み終えたら、元の場所(本棚)に戻してください。



←こちらからアクセス
いただけます

幼稚園のSDGs キリスト教保育とSDGs 園長 高田 憲治

神様の創造された自然とふれあい、食育・農育の活動に取り組み、一人ひとりがその子らしく育つことを支え、自ら課題を見つけ仲間と共に解決する術を創意工夫する「主体的・対話的・協同的・探求活動(=遊び)を中心とする保育」に取り組み、平和を創り出す人を育むキリスト教保育の営みは、SDGsと同じ方向性であると言えます。園生活の中で、直ちに取り組むことができる目標やターゲットもある一方、幼児期の子どもに種を蒔くことによって、持続可能な社会の実現に貢献する人材育成という間接的な取り組みの道筋もあります。

目標4『質の高い教育をみんなに』については、入園面接の際に子どもの姿や発達の具合で選別をおこなわず、定員の許す限り一人ひとりを特別な存在として受け入れることとしています。また『質の高い教育』とはどのようなものであるべきか、実践を重ねながらそのOODAサイクルを回しています。

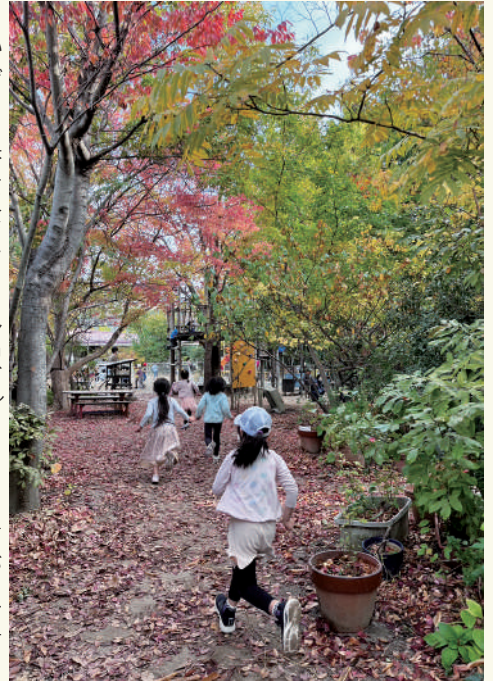
目標13『気候変動に具体的な対策を』については、園庭の遊具を、プラスチック製品から土に還る素材へと切り替えをおこなっています。

できていることを数えてよしとするのではなく、私たちがなすべきことは、目標の一つひとつを自分ごととしてとらえ、これから育ちゆく子どもたちの心に、どのような種を蒔くことができるかを考え、実行することです。果たして、私たちは子どもたちにどのような教育的作用、効果を及ぼしているのでしょうか。17の目標と具体的なターゲットに照らし合わせて省察すると、多くの課題が山積していることが浮かび上がってきます。

目標5『ジェンダー平等を実現しよう』について、柔軟な幼児期に性への意識が摺りこまれていくことを考えると、私たちが園児一人ひとりに対してかかわる態度、姿勢、言葉選び、責任の重大さを強く感じます。「男の子だから泣かない!」とか「女の子らしくしなさい!」などの言葉がけは消滅してきているとはいえ、園生活の中

にはまだまだ偏った取り扱いが残っています。具体例を上げると、園児のロッカー等のマークを保育者が決める際、女児にはいちごやうさぎ、男児には車やライオン等のマークを選んできていました。今後、自由選択できるよう取り組んでいきたいと思えます。

子どもたちを取り囲む社会には、「青が男の子、ピンクが女の子」「男の子には戦隊もの、女の子はメイク道具」等、偏った情報が未だあふれています。私たちの園から、子どもたちに良質で偏りのない文化を提供することの重要性について、情報発信をし続けることも、今すぐに取り組むことのできる課題の一つです。



自然とふれあう園環境

参考資料(QRコード):土に還る遊具について「ひこうきぐも123号」



こちらからアクセスいただけます

法人のSDGs ペーパーレス化の推進と働き方改革に向けて 経営企画課 宮内 まどか

用紙使用枚数を集計し見える化(2018年度から継続)

経費節約やIT機器活用の観点から2018年度に「ペーパーレス化検討会」を立ち上げ、職員が部署を超えて横断的にペーパーレス化実現へ向けて検討を重ねました。そこでは、実際にどの建物でどのくらいの用紙が使われているかの現状を数量で把握し、2019年度から学内に対して使用枚数削減のアナウンスを行いました。その結果、2019年度のスタート時に約230万枚の使用量が2021年度には約136万枚と約40%削減し、ペーパーレス化の意識が浸透してきている結果になりました。引き続き女学院全体でペーパーレスへの意識を高め、資源を大切にしていける所存です。

会議の効率化に向けた運用ルールを制定(2022年10月)

教職員からあがった意見が発端となり、教職員の会議時間の短縮やペーパーレス化に伴う費用削減、業務効率化などに役立てることを目的として「会議効率化プロジェクト」を2022年度に発足しました。会議時間や内容、作成資料について全教職員にアンケートを実施し、どのような課題があるのかの洗い出しから始動しました。アンケートの回答では「紙と紙でない資料が混在していて、煩雑」であることや、「資料を事前配布の上、目を通した上で会議に出席したい」などの意見が集められました。そこで、アン

ケート結果を受け会議効率化プロジェクトでは、以下のような「会議の効率化に向けた運用ルール」を制定しました。



会議効率化へ向けた改善の鍵となったアンケート結果

(一例)

- ・会議資料は遅くとも「前日の12時まで」に会議メンバーへデータ配信をする
- ・原則としてペーパーレスとし、紙での資料が必要な場合は出席者が各自用意する
- ・会議開催前に、「開始時刻」と「終了予定時刻(もしくは想定所要時間)」を設定しておく

このルールは2022年10月から導入され、会議時間の削減やペーパーレス化、オンライン会議の恒常化へ向け、取り組みを行っています。法人会議においても、同時期よりペーパーレス移行に取り組んでおり、2023年1月の理事会は開催通知、出欠確認、会議資料等をペーパーレスで実施しました。

大学

卒業生の活躍 —英国オックスフォード大学大学院へ進学—

国際英語学科 磯部 祐実子

国際英語学科の卒業生は様々な分野で活躍しています。就職以外にも進学や留学といった選択をした卒業生もいます。GSEコースで学んだ江口夏帆さんは、2022年9月から英国オックスフォード大学大学院修士課程コース (MSc Sociology) で研究活動を開始されました。留学の様子を伝えてもらいたと思います。

海外の大学院への進学を目指したきっかけは、女学院大学在学中に行った交換留学先で社会学の授業を履修したことでした。特に私の関心分野である社会階層論では、分野を牽引する先生がオックスフォード大学に多くいらっしゃるから進学を志しました。渡英後は、授業を受ける時や、友人たちとの交流の際に、GSEコースで身につけた英語力が役立っています。GSEコースでは英語でディスカッションを行ったりエッセイを書いたりする機会

が多かったので、現在は英語面ではあまり不安を感じず、専門の勉強に注力することができています。また学部には日本人は私一人なので、日常的な英会話能力も助けられています。

オックスフォードの街は賑やかで、パンデミックの影響を感じることはほとんど無くなりました。今年から授業も対面に戻り、学内のソーシャルイベントなども活発に行われています。学業だけでなく人との交流にも力を入れて留学期間を有意義なものにしたいと思います。

ラドクリフ・カメラと呼ばれる、
オックスフォード大学図書館の一つ



(2022年3月卒業 江口 夏帆)

留学生が世界平和弁論大会でスピーチ

日本文化学科 渡邊 ゆかり

2022年11月13日(日)、広島工業大学広島校舎にて第31回「日本語による世界平和弁論大会」(ヒロシマ・ピース・センター主催)が開催され、広島県に在住する外国人留学生在が「世界平和」をテーマとする5分程度のスピーチを行いました。本学からは人文学部日本文化学科1年のホアン・ティ・ハイ・グエンさんと2年のチャン・ティ・トゥイ・リンさんの2名が出場し、それぞれ3位と4位に入賞しました。

グエンさんは「私の世界を変えた笑顔」というタイトルのもと、日本に来たばかりのころの孤独な生活を変えた、あるおばあさんの笑顔にまつわるエピソードを紹介したのち、会場の人々に「み

なさんも笑顔で世界を変えましょう!」と呼びかけました。一方、リンさんは「広島から学ぶ世界平和」というタイトルのもと、世界の人々が経済的な協力だけでなく、文化交流も強化し、国家間の相互理解を深め、互いに親近感を持てるようにすることが平和のために必要であると訴えました。

今回の出場者は合計12名でしたが、いずれの留学生の発表も平和への想いを強く訴えるすばらしい発表でした。それぞれの出身国の価値観や抱えている問題を通して見たときの平和についても考えることのできる貴重な時間でした。



平和への想いを日本語で

グローバルフィールドワーク報告

生活デザイン学科 永野 晴康

生活デザイン学科の「グローバルフィールドワーク」は、公共政策、地域活性化、グローバル化について、地域の実情を調査し、観察し、より良い社会、地域の創出について学ぶことを目的としています。

今回は、受講生と相談の上、調査対象地を横浜・鎌倉としました。前期の授業で、調査地に関する事前学修を行い、9月4日から9月8日まで、現地でのフィールドワークを行いました(学生7名、引率教員1名)。

まず、日本の伝統文化や伝統産業について、松栄堂横浜店で、日本の伝統的な香りの文化であるお香の知識を学び、匂い袋の製作を体験しました。また、シルク博物館では、開港以来の日本の主要

な輸出品であった生糸に関して、蚕糸業から絹製品の製造輸出、集積地・横浜の発展にいたるまで、幅広く学ぶことができました。

また、グローバル化と地域に関して、アンスティチュ・フランセ横浜を訪問し、横浜開港以来の日本とフランスの文化交流や、ベルエポック時代のフランスや横浜の様子について映画をまじえて学びました。

さらに、鎌倉では、鎌倉の歴史、現在の鎌倉の商店街の取組みと地域活性化など、鎌倉ボランティアガイドの方から詳しくご説明いただきました。その他にも多くの学びのある非常に有意義な研修となりました。



松栄堂にて

大学

第7回管理栄養
海外フィールドワーク

管理栄養学科 土谷 佳弘

2022年8月22日から8月27日の期間で、アメリカ合衆国ハワイ州オアフ島にて、3年ぶりに管理栄養海外フィールドワークを行いました。例年、本研修は冬期に実施していますが、コロナ禍による延期に伴い、初めて夏期での実施となりました。今回で7回目となる研修には、2年間、準備を続けてきた管理栄養学科3年生3名、4年生1名の計4名が参加しました。本研修では、ハワイの各施設見学を通して、日本と米国の食文化や栄養管理の違いについて学ぶことを目的としました。

ハワイ大学マノア校の研修では、管理栄養士のJinan Banna 准教授による講義を受講し、ハワイ大学の学生とディスカッションを交えながら、日米の健康問題や食習慣の違いについて学びを

深めました。また、広島女学院同窓会ハワイ支部の藤本陽子支部長のご案内のもと、ホノルル美術館を見学しました。世界各地の工芸品や絵画が多数展示されており、世界とハワイの歴史的な背景を知る機会となりました。

学生は管理栄養海外フィールドワークを通して、米国の栄養に関する専門的な見識を深めただけでなく、訪問先での英語での発表や交流を通して積極性や柔軟性を養い、人として大きく成長することができました。研修内容の詳細につきましては、本学ホームページの管理栄養学科ニュースをご覧ください。



ハワイ大学マノア校にて

公開セミナーを通じて発信する
児童教育学科の学びの世界

児童教育学科 加藤 美帆

児童教育学科では、「児童教育学科の学びの世界へようこそ—高校生・大人のための教養講座—」と題し、第39回広島女学院大学公開セミナーを開催しました。第1回は森保尚美教授による「大人のための童謡講座」、第2回は中村勝美教授による「子どもから見た平和—20世紀の児童救済と戦争」、第3回は紀村修一専任講師による「大人のためのやさしい体力アップセミナー」、第4回は三桝正典教授による「教育と芸術」で、学際的な色彩の強い児童教育学科ならではの講座となり、大変好評をいただきました。コロナ禍の中、いずれの回も対面とオンラインで多くのご参加がありました。

当日は、大正期の童謡や、明治から昭和期の学校唱歌を紐解きながら現代をとらえたり、ヨーロッパと広島を舞台に、戦争の中で子どもたちがどのように生きてきたのかについて考察したり、年齢や性別、運動の得手不得手や障害の有無等に関わらず楽しめる運動で共に汗を流したり、美術館のアート作品を、子どもの視点に立って五感をはたらかせて鑑賞する方法を学んだりして、豊かな学びの時を過ごしていただくことができました。セミナーを受講してくださったおひとりおひとりのお心に、児童教育学科からのささやかな贈りものが届いていれば嬉しく思います。



会場の受講風景

2022年度
秋季宗教強調週間報告

大学宗教委員長 澤村 雅史

今季の特別講師としてお迎えした日本福音ルーテル広島教会牧師の立野泰博先生は、10月11日(火)の「キリスト教の時間」では、『自分のなかに「ことば」があるか?~中近東で平和を語って見た~』と題し、マイク5:9でイエス・キリストが宣べる「平和を造り出す者」として生きることへの励ましを語って下さいました。講話の冒頭では、先生とご一緒に登壇下さった二胡奏者・吉田優子さんと、シンガーソングライターとしてもご活躍の三輪真理さんのピアノによる美しい演奏にのせて、愛らしいパレスチナの子どもの笑顔の写真が映し出されました。ところが、これらの子どもの半分以上はもうこの世にいないのだということです。中の一人の少女が先生に語ったという「将来の夢は教師になること...もし大人になれたらね」という言葉に、衝撃を受け、涙した学生も多かったようです。

翌12日(水)の特別講演会では、『青春って密!地域って密?愛は非密!~アフターコロナに「新しい密」をスタート~』と題しての講話の中で、先生が一年半にもわたって東日本大震災の被災地支援にあたった経験が、現在行っている「るうてる食堂」という取り組みにつながっていることが語られました。震災の被災地では、人命や建物の被害が大きかったことに加え、長引く避難生活により地域のコミュニティが分断され、人々から生きる力が削がれていくという問題が生じたとのこと。その中で、自身も被災者である女性が仮設住宅ではじめたカフェが人々に笑顔を取り戻させるきっかけになりました。

震災とは異なる災厄ですが、コロナ禍もまた人々を引き裂いています。そこで立野先生は、こどもを中心に、誰でも集うことのできる場所をつくりたい!と、仲間たちと共に「るうてる食堂」を始めたのでした。今では本学の学生たちもボランティアの輪に加えていただき、夏には管理栄養学科の学生がレシピ開発と調理担当もさせていただきました。この時の様子をぜひ、次のQRコードから動画をご覧ください!



大学

第73回 あやめ祭 「遮二無二 ～All the way up～」

学生課長 今井 妙

3年ぶりとなる「あやめ祭」が2022年11月13日(日)に開催されました。新型コロナウイルス感染症対策として、原則学内開催で予約制、学生と学生の家族・友人、地域の住民の方など入場制限を行いました。思いも掛けず1400名近くの来場がありました。当日は時に小雨が降る中、あやめ祭実行委員会委員長の横尾百香さん(日本文化学科3年)による開会宣言で始まり、ステージでダンス部やフォークソング部によるパフォーマンスなどが行われました。自治会アイリス主催のおばけ屋敷は、専門業者のプロデュースにより本格的なものとなり、入場者の悲鳴が外まで響き渡ることも。屋外ではクラブ・サークルやゼミ、教職員が出店する趣向を凝らした模擬店が並び、キッチンカーも登場し、それぞれ賑わっていました。午後からの吉本興業によるお笑いライブはほぼ



3年ぶりの横断幕

賑わう構内

満席となり、続いて人気のピンゴ大会、「あやめ祭」の華である生活デザイン学科の学生製作の衣装による「ファッションショー」、そして「エンディング」と恒例行事で締めくくられました。オープンキャンパスも同時開催し、学科展示や発表なども行って、1日だけの短い開催でしたが充実したプログラムとなりました。なにより本学学生の参加が多かったのは嬉しいことでした。皆様のご協力に感謝いたします。

『ハロウィンフェスタ～みんなでコスプレ大集合～』開催

管理栄養学科 妻木 陽子

コロナ禍においてイベントが縮小される中、日常生活で楽しい時間を作り、大学全体を明るくすることを目的としたこのプロジェクトは、学生が中心となって企画・運営を行いました。



パレードの様子。子ども達も来てくれました。

初の試みで、当日を迎えるまで不安もありましたが、多くの学生と先生が仮装して授業に出席したり、パレードに参加したりと、イベントを楽しんでくれている姿が見られたので嬉しかったです。今回のイベントが学生の皆さんにとって、大学生活の楽しい思い出のひとつになればいいなと思います。

(生活デザイン学科3年 竹内 花音)

ゴスペルプロジェクトの使命

管理栄養学科 石長 孝二郎

“ゴスペルプロジェクト”とは何ですか?と聞かれば、それは“祈り”です。合唱団とはまったく異なります。



ゴスペルプロジェクト あやめ祭

創立者の砂本貞吉先生の女子教育に対する祈り、N.B.ゲーン

先生の女子教育に対する祈り、女学院の建学の精神を支えてきた方々の祈りが広島女学院には脈々と引き継がれています。これら女子教育と平和への祈りが広島女学院の魂の一粒だと思っています。“ゴスペルプロジェクト”の使命は“祈り”を消さないことです。聞いて頂ければ“祈り”の波長が響き合います。

広島県外からますます多くの学生を迎えるため 県外募集の「応援スタッフ」を募集します!

入試課 西田 裕彦

遠くは北海道から沖縄県まで、今年度も県外出身の学生が数多く学んでいます。大学の多様性と活性化を保つため、ますます多くの学生を県外から迎えたいと考えています。

そこで、広島県外にお住いの皆様で、本学の広報活動(資料配布、受験やオープンキャンパス参加を促進する高校訪問など)をサポートいただく「応援スタッフ」を募集しています。謝礼として月額1~2万円および交通費をお支払いする予定です。

応援いただける方は、入試課(担当:西田)までご連絡ください。お待ちしております。



笑顔で本学の魅力をお伝えしています

広島女学院ファミリーへ 入学金減免制度を開始

入試課長 山本 寛

広島女学院大学では2023年4月以降に本学へ入学される方を対象として<入学金減免制度(ファミリー減免制度)>を開始いたします。

ご家族(2親等以内:祖母、母、姉等)に本学の卒業生・在学生がいらっしゃる方、または兄弟姉妹がゲーン幼稚園、広島女学院中学高校、広島女学院大学院に在籍していらっしゃる方が対象となります。通常25万円の入学金を15万円減額し、10万円といたします。本学へ進学をお考えの方をご存知でいらっしゃればファミリー減免制度についてお伝えいただけますようよろしくお願いいたします。

お問合せ先

広島女学院大学入試課 TEL:082-228-8365(直通)

MAIL:nyushi@gaines.hju.ac.jp

中学・高校

安田登先生 文化講演会・特別授業

国語科主任 那須 泰

2022年6月21日、4年ぶりとなる文化講演会が開催されました。講師は、能楽師の安田登先生と琵琶奏者で作曲家の塩高和之先生です。お二人は、2019年5月にNHKの人気番組「100分de名著『平家物語』」で共演。この回の反響は大きく、2020年にアンコール放送されたほどです。今回、ゲンスホールでの共演が実現したのです！「古典を生きる」と題し、『平家物語』のお話の中では、以仁王が拳兵した「橋合戦」を生徒も声を出して演じました。ホールに集まった高校生全員での謡は迫力がありました。また、教師経験がおありの安田先生のユニークな語りには爆笑の連続。能の舞と琵琶の音色に魂が揺さぶられる90分でした。

帰京の途中、安田先生がこんなツイートを…。「広島女学院での講演が終わって東京に向かっています。高校、全校でホールいっぱいでしたが、とてもいいノリ。「はい。じゃ謡ってみましょう」「ええ！」とか言いながら、ちゃんと謡う。笑いも大きいし、質問もある。考えるときにはちゃんと考える。ありがとうございました。」と。安田先生も楽しんでくださったようです。

この文化講演会の中で、安田先生は「今度、授業させていただきます！」とおっしゃっていましたが、9月29日に、第二弾として、特別授業が実現しました。この授業は、チェロ奏者新井みつこさんとのコラボレーション。甲骨文字の話にはじまり、能面の歴史まで。立ち見も出るほどの生徒で埋まった会場は感嘆と爆笑が交互に起こり、6月とはまた異なった熱気につつまれていました。

今回は琵琶とのコラボで拝聴した夏目漱石の『夢十夜』を、今回

は西洋楽器のチェロに合わせて舞っていただきました。そこで、サプライズ！数々のコンクールで受賞経験のある高3生半田珠璃さんもピアノで演奏に加わり、和洋折衷の「能」が、世界で初めて上演されたのです。



チェロとピアノと能のコラボ(929特別授業)

今回、この特別授業のために安田先生が用意してくださったレジュメは8ページ。あまりの盛り上がりで、進んだのは1枚目のみ…。ということは、あと7回、安田先生が来てくださるといことなのかもしれません。



安田先生と共に弓を射る生徒たち(621文化講演会)

多感な高校生のうちに文化の深奥に触れる経験は、かならず人生を豊かにします。安田先生との出会いのみならず、女学院生活におけるさまざまな出会いを通じて、文化のすばらしさを感じてほしいと願っています。

劇団四季「リトルマーメイド」鑑賞行事

中学教頭 渡部 新

9月14日(水)に、劇団四季「リトルマーメイド」鑑賞行事がありました。2015年の劇団四季「美女と野獣」鑑賞以来、7年ぶりです。

生徒たちはこの日を心待ちにして迎え、当日は午前の短縮授業

を終えて、上野学園ホールに移動し、全校生徒・保護者・教職員の貸切で演劇を鑑賞しました。キャストの皆さんの素晴らしい歌声と魅力的な演技に引き込まれ、素敵な時間を過ごすことができました。

なお、記念品として当日のキャスト全員のサイン入り大型ポスターを頂きましたので、中学校舎1階に展示しております。是非ご覧ください。

創立136周年創立記念礼拝

宗教教育委員会 刀祢館 美也子

9月24日(土)、勝部禎文元校長先生をお迎えして、特別礼拝が持たれました。勝部先生は、2002年度から2009年度まで校長として、中高校地を結ぶ上空通路や高校校舎の建築に尽力されました。先生のご体験と女学院の歴史を通して、次のような内容のメッセージをいただきました。

「今年で136周年を迎える女学院の歴史には、二つの原点がある。一つは、創立をめぐる生き生きとした物語で、様々な人の協力があったが、その中心にゲンス先生がおられた。女学院は初めからこの校地に建てられたわけではなく、何回か場所を移したが、ゲンス先生が来られた時は細工町、現在の原爆ドームのすぐ横にあった建物を使って、そこからゲンス先生の働きが始まった。『われらは神と共に働く者なり』(コリントの信徒への手紙一 3章9節)という学院聖句は、逆に言えば「神様が共に働いて下さっている」ということ

であり、そこに大きなパワーの源があったのではないか。

もう一つの原点は、創立59年目、1945年8月6日に投下された原子爆弾によって、350余名の生徒・教職員が犠牲になったことである。女学院では平和教育を大切にしてきたが、核兵器廃絶のために活躍している在校生・卒業生を見て励まされる。



創立記念礼拝(勝部禎文先生)

現在、私たちの周りにも、世界規模でも様々な問題がある。過去から学び、礼拝や人との出会いを通して、自分の価値観・倫理観を作り、物事を見抜く目を養ってほしい。」

中学では、中高間を移動する生徒の安全のために、上空通路を作ろうとした時の苦勞とできた時の喜びを語って下さり、私たちの学校生活が、ゲンス先生をはじめ、多くの方々の祈りと労苦と生徒を思う愛によってつくられてきて、今あることを思われました。

中学・高校

キリスト教強調週間(11月14~19日)

宗教教育委員会 刀祢館 美也子

主題「生きる意味」、主題聖句はイザヤ書53章1~10節(「主の僕の苦難と死」について語られ、キリスト教ではイエスの十字架を意味すると考えられている。)のもと、15日の特別プログラムでは、主題講演と学年別活動が実施されました。

主題講演講師の姜尚中先生は、1950年、熊本県で在日韓国人2世として生まれ、政治学者として国際基督教大学や東京大学で教鞭をとられ、キリスト教学校である聖学院学長(東京)を経て、現在、鎮西学院(長崎)院長・学長をされています。『悩む力』など多くの著書がベストセラーになり、テレビや新聞でも広く活躍されています。若い頃、自分のルーツのことで悩んでいた時に支えられた牧師との出会いを通してキリスト教信者になられました。



キリスト教強調週間(姜尚中氏)

高校の講演では、「人間は社会的存在であり、過去に規定されている。根本的に自由ではないのに、自由を前提としたグローバリズムのもと、自己責任という名の弱者の切り捨てが行われてきた。「生きる意味」とは内面世界だけで実現するものではなく、社会との関わり抜きにはありえない。ことばの真の意味での「政治」、他者と共に望ましい社会の在り方を決めていく仕組みに向き合うことが重要で、そこから生きる意味も見えてくる。」と、ウクライナや核の問題にも触れながら、幅広く世界の情勢を踏まえたお話をいただきました。

中学の講演では、夏目漱石やトルストイなどの作品に触れながら「人間は、自分ではどうすることもできない不幸に出会ったとき、物事を深く考える。人生の目的は幸福を見出すことではなく、不幸であっても深い意味があることを理解すること。学歴や知識の多さでは決して得られない「憧れ」を持ち、他者と「希望」を分かち合うこと、そこからはじめて人生の意味が見えてくる。」また、「今この時期に孤島に持っていきたい本と出会ってほしい。そのような本と出会うことで人生の奥行と広がりができる」と語られました。

昼食後の講師を囲む会には、高校チャペルに中高生が集まり、生徒からの質問に丁寧に答えていただきました。

学年別活動は、「隣人と共に生きる」というテーマで、中学ではハンセン病療養所(現在は完治された元患者の方々)へのクリスマスカード作り(中1)、障がい者への理解と支援を考える講演と実践(中2・中3)、高校ではクラス別に施設などへの奉仕活動(高1)、ホームレス支援や精神疾患を持つ人との関わりなど様々な分野の講師を迎えてのグループ別活動(高2)、「キリスト教と人生」をテーマにしたグループ別講演と新生入生に贈る聖書袋に添えるカード作成とラッピング(高3)などを行いました。

この日の最後には振り返りの時間を持ち、その感想文の中から選ばれた各学年の代表が、19日(土)の閉会礼拝で発表し、それぞれが得たものを分かち合いました。中高生にはかなりレベルの高い講演内容でしたが、自分たちの現実につけて、しっかり考えている様子がかがえました。また、講演前の読書の時間に読んだ朝日新聞に掲載された姜先生の生い立ちや、悩み相談への回答も、生徒たちの心に訴えるものがあつたようです。



車いす体験(中2)



新生入生に贈る聖書袋のラッピングとカード作成(高3)

週間中の生徒の委員会企画では、高校は、キリスト教徒に関連する音楽放送、「女学院とキリスト教」をテーマとした先生方へのインタビューや動画の上映、そして、各クラスによる作品創作が行われ、高校職員室前に展示されました。

中学は、主題である「生きる意味」についての先生方へのインタビュー、校内にあるキリスト教絵画に関するクイズ、中学YWCA部によるハンドベルミニコンサートなどが行われました。

8・6平和祈念式・平和記念礼拝(被爆77周年)

宗教教育委員会 刀祢館 美也子

8月6日午前10時より、ご遺族・関係者の方をお迎えして平和祈念式が行われました。高校茶道部の献茶、平和を祈る週に中学生が折った千羽鶴の献納、追悼の言葉を三谷院長・竹内路子同窓会長、女学院大学学生の中田愛実さんが述べ、最後に中学YWCA部のハンドベル演奏を聴きながら献花をしました。

午後1時30分からは、中1、中3、高2の生徒が出席し、8・6平和記念礼拝を捧げました。講師の土屋時子さんは、広島女学院中学高等学校・大学を卒業後、大学図書館司書として働かれました。戦後生まれで被爆体験はありませんが、13歳の時、『アンネの日記』を読んで、「自分は戦争を許す人間にはならない」と心に決め、大学時代に出会った演劇や詩を通して、平和と命の大切さを伝える活動してこられました。在職中、広島女学院原爆被災誌『夏雲』をもとにした朗読劇を制作し、学生と共に上演。その中から『名前』という詩を最後に朗読して下さいました。

広島女学院原爆慰霊碑に刻まれた351名の名前の向こうに、両親によって名付けられ、愛されてその名を呼ばれて生きていたかけがえのない一人一人の命と、失われた命への消えない悲しみがあることが伝わり、胸に迫りました。



平和記念礼拝(土屋時子さん)

中学・高校

体育大会

保健体育科 今田 英樹

5月11日に体育大会が開催されました。3年ぶりに全校揃っての、そしてグリーンアリーナでは初めての体育大会でした。

競技は徒競走から始まり、学年種目、五色対抗種目など盛りだくさんでした。会場が屋外から屋内に変わった関係もあり、プログラムにも若干の変更がありました。

中3の「大玉運び」は、今回からの新競技です。各色の大きな球を全員で運ぶ光景は、ダイナミックでスピーディで体育大会を大いに盛り上げてくれました。高3は「むかで競走」。高校生活最初で最後の体育大会となりましたが、担任の先生も含め、クラスみんなで声を掛け合い、息を合わせて進んでいく姿を見せてくれました。色んなことはあるけれど、とにかく楽しむという姿勢に、この学年らしさを感じ感動を覚えました。女学院の体育大会と言えば「着せつけ競走」。高3の生徒が考えた仮装を、それぞれの色ごとに先生に着せつけていきます。仮装が完成すると、会場内を一周。観客



席からは、大きな歓声(悲鳴!?)が上がっていました。

久々の体育大会でしたが、学年を超え、応援する姿、協力する姿、臨機応変にサポートし合う姿、決して日頃の学校生活では見ることのできない姿でした。行事を通じて得られるものは非常に多いと再確認した一日でした。

文化祭

中高生徒会顧問 古川 由希子・前 瑛子

今年の文化祭は、家族だけでなく、小学生600人をお客様として迎え、11月3日に開催しました。「牡丹に蝶」をテーマにかかげ、「牡丹のように絢爛に咲き、蝶のように美しく舞う」という目標を持ち、実施しました。3年分の思いを込めて、日々の学校生活の中で築き上げてきたつながりをもとに、団結しつつ色鮮やかな個性が輝く文化祭となりました。

これほど沢山の方をお招きしたのは3年ぶりでしたので、生徒教職員一同、張り切って準備をしました。中学では、生徒全員の協力によるモザイクアートの制作に取り組みました。高校HRや各部では、その特性・個性を生かした発表、展示や体験学習・ゲーム等があり、多くの来場者を魅了していました。華やいた校内で、声を弾ませる生徒たちの姿を見ることができ、教職員一同、喜びを感じました。



パンフレット



ファイル



ポスター

保護者の皆様にも、楽しんでいただけたかと思います。さまざまな制約がある中でしたが、ご来場していただき、感謝申し上げます。

またPTAの皆様、同窓会の皆様、お父さんの会の皆様にも文化祭を盛り上げていただきました。この場を借りて心からお礼申し上げます。ありがとうございました。

卒業生で映画監督の浅雄望さんをお迎えしての試写会

高校教頭 高見 知伸

2005年度の卒業生・浅雄望さんは大学、大学院で映画制作を学んだ後、映画界で仕事をしながら長編デビュー作「ミュージスは溺れない」を3年かけて制作されました。この映画は新人監督の登竜門とされる二つの映画祭、第22回TAMA NEW WAVEと第15回田辺・弁慶映画祭においてグランプリを受賞し、更に新藤兼人賞の最終選考監督/作品の10人にもノミネートされました。中高では浅雄監督をお迎えして11月下旬に試写会を実施しました。この作品は、高校生の最後の夏を舞台に思春期の心の機微を丁寧に描いており、映画評論家からも絶賛されています。

試写会後のトークでは、映画のシーンの解説や苦労話だけにな

く、日本の映画界が直面している課題にも話が及びました。また、生徒からの質問にも丁寧に答えて下さいました。映画監督になった理由



試写会参加教員、卒業生と

については、「中高時代、悩みのなかにあるときに映画に救われることがあり、今度は自分が映画を作る側になりたい。100人見る人がいて、そのなかで一人でも「救われた」と感じてくれるのであれば、私はその一人のために映画を作りたい」と映画制作への情熱を語って下さいました。「映画のテーマは」という質問に対しては、「セクシュアリティやジェンダーが私のテーマ。男だから女だから、という線引きではなく、揺らぎのなかで生きてもいい、と中高時代に考えるようになった」と、女学院で過ごした6年間で映画監督としての現在につながっていることを様々なエピソードを交えながら話して下さいました。

幼稚園

はじめてのぼうけんのもり

教諭 今井 あい

大学と幼稚園をつなぐ雑木林、子どもたちが「ぼうけんのもり」と呼ぶ空間は、昼間は子どもたちが遊び、夜になるとタヌキやイノシシ、アナグマやキツネたちが活発に活動している場所です。木に囲まれ、土の匂いを感じながら葉っぱを踏みしめて歩くこの空間では、街中ではなかなか出会うことのできない感覚をたっぷり味わうことができます。

入園したばかりの年少児にとって、はじめてのぼうけんのもりは期待と不安の入り混じった場所でした。嬉しくて早速走り出す子ども、どきどきしながら慎重に道を進む子ども、不安で涙が出る子どももいました。それでも、「坂道はおしりで滑るとこわくないよ」「きれいな葉っぱ、あった!」「見て!上まで登れたよ!」一人ひとりの子どもがその子どもなりに挑戦と発見を重ね、だんだんと森での体の動かし方に慣れていきます。広い森、行く度に新しい出会いがあります。「つぎはどこへ行こうかな」これからも子どもたちと共にぼうけんのもりでの活動を楽しみたいと思います。



歩くたびに発見がたくさん!

年長・5歳児 デイキャンプ

教諭 島 有里咲

年長の子どもたちにとって夏の一大イベントであるデイキャンプ。今年度も無事開催することができました。全体のテーマは「わ つながって~」テーマの通り、いろいろな場面で子どもたち同士がつながってたくさんの「わ」が生まれました。

当日の朝、幼稚園の門をくぐると元気に駆け出していく子どもたち。朝は少し保護者と離れがたかった子どもも、友だちと顔を合わせると安心して遊び出せていました。プールに入ったり、クラスの友だちと協力してビーズを転がすコースを繋げたりしてたっぷり遊び、夕食にはみんなで作ったカレーとナンをお腹いっぱいいただきました。心と体が満たされ、あたりが暗くなってきたら、3クラスの子どもたちが集まって夜空を仰ぎながら礼拝を守り、



つながって 輪になって

みんなの気持ちが静かに一つになりました。礼拝後のキャンプファイヤーでは火を囲んで大きな輪を作って歌って踊って楽しみ、朝から夜まで幼稚園で過ごす特別な一日となりました。

藍染め

—文化の伝承と自然の恵みにふれる—

教諭 柳田 皓佑

卒園を間近に控えた年長児が、4月から新年長になる年中児に「幼稚園を任せよう」という気持ちと共にタデアイの種を贈り、藍染を体験する活動が受け継がれています。

4月、進級してすぐに小さな種を一粒ずつプランターに植えました。水遣り、追肥をおこない、7月と8月に葉を収穫し、数週間、保育室内で乾燥させました。

そして迎えた10月下旬、藍染名人の久保田さん、大山さん、保護者サークル「あゆみの会」の方々にお手伝いしていただき、大きな鍋で染液を煮出しました。園庭に並んだ三つの鍋に一人一枚の絞りを入れたハンカチを浸して取り出すと、はじめは黄色、酸素にふれるようパタパタと振ると緑色、そして藍色に変わっていきます。この工程を3回繰り返す、最後は定着液に浸して仕上げていきます。豆絞りや、結び目をほどくと、世界に一つだけの個性的な模様の藍



きれいに染まれ!

染ハンカチが出来上がりました。

ハンカチはお弁当包みにしたりヘアバンドにしたりと、それぞれに愛用し、運動会でも活躍しました。神様、自然の恵み、人とのつながり、つくる喜びを与えてくださり感謝です。

幼稚園

恵みに感謝!

教諭 橋本 佳南

牛田の山に涼しい風が吹きはじめると、幼稚園のあちらこちらで秋の恵みを感じられるようになります。園庭には、年長の子もたちが田植えをして育てた稲が重そうに穂を垂れ、かりんの木がいい香りの実を落とします。北門横にあるゲース農園では、さつまいもや藍染に使うアイタデの葉が、子どもたちが収穫に来るのを待っています。幼稚園で初めて芋ほりをする年少の子もたちは、手が汚れることなど気にせず、出てくるお芋を嬉しそうに見せてくれたり、もっともっとと夢中になって探していました。採ったさつまいもは、さつまいも汁にしておいしくいただきました。自分たちで苗を植えたり、水やりや草取りをして育てるという経験



さつまいも、たくさんできているかな?

をすることで、収穫や食べることに目を向ける大切な時間になっています。感謝祭礼拝の中で、神様のお守りと草取りや収穫を手伝ってくださった保護者の方に感謝し、収穫した喜びを分かち合いました。

「保護者と保育者の両輪で」

教諭 佐賀 玲奈

ここ数年、対面での学びや交わりの機会がなくなっていた中で、11月中旬によく保護者を対象に絵本クラブ主催の講演会が幼稚園ホールで開催されました。絵本作家のさこもみさんをお招きし、絵本の魅力を改めて感じる豊かな時となりました。

12月には子どもたちがホールに集い、お楽しみ会を行いました。コーラス部と人形劇クラブの保護者の方々が数か月前から準備を下さり、クリスマスを感じる歌や思わず一緒に体を動かしたくなるような人形劇に、大喜びの子どもたちでした。今年度はコーラス部と人形劇クラブと一緒に披露される場面もあり、保護者の方々が楽しんで創り上げて下さっていることが子どもたちにも伝わる、あたたかい時間となりました。

コロナ禍を乗り越え、これからも保護者と保育者の両輪で歩んでいきたいと願います。



コーラス部と人形劇クラブのコラボレーション

子育て支援講演会

「絵本のじかんがくれたもの」

講師: さこもみさん

広島女学院ゲース幼稚園
みざわ会・絵本クラブ主催

日 期 2022年11月27日 (木) 10:00-11:30
場 所 広島女学院ゲース幼稚園 ホール
参加人数 全席定員: 60名 (《絵本読者対象》)
参加申込 2022年10月20日(木) 10時より ※要予約
※お申し込みは、みざわ会事務局へお申し込みください。

さこもみさん講演会のパンフレット

未就園児親子対象園庭開放 『オープンガーデン』

主事 古重 歌織

園庭の紅葉が美しく映えるこの季節に、0・1・2歳児を対象に園庭開放を開催し、22組62名の親子をお迎えすることができました。豊かな自然に囲まれた園庭の雰囲気を肌で感じていただき庭の片隅の焚き火広場では炎の揺らめきに心動かしながら会話をを楽しむ親子の姿もありました。また、牛田キャンパスの大きな魅力の一つであるぼうけんのもりの存在は木々に包み込まれる貴重な経験ができる場となっています。園内施設を全て開放して過ごしていただきましたので保育室では、様々な遊具を手にとって遊んだり、親子でおままごとをしたり、思い思いに楽しい時間と場所をつくり出しておられました。また、ホールでは大学児童教育学科3年生の学生さんが遊びコーナーや絵本の読み聞かせコー



幼稚園ホールにて、親子でゆったりと

ナーを準備し、初めて園に足を運んで下さった親子にとっても安心感を持って過ごせる場を提供してもらうことができました。

今後も子育てに関する情報交換や、相談の場として、そして何より親子で安心して過ごせる場所としての一翼を担えるよう働きかけて参りたいと思っています。

法人

◆ 次期幼稚園長選任

学校法人広島女学院は、2022年9月30日(金)開催の理事会において、次期広島女学院ゲース幼稚園長として古重歌織氏(現広島女学院ゲース幼稚園主事)を選任しました。なお、任期は2023年4月1日～2027年3月31日です。

◆ 2022年度広島女学院全学院研修会

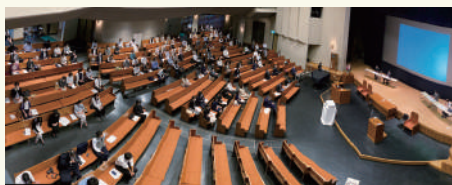
～我らは神と共に働く者なり～

中高聖書科 金 清洛

今年度の全学院研修会は企画に携わったメンバーの協議により、中高ゲースホールに集う形式で実施することを決定しました。この数年間、感染症によりオンラインでの形で開催されてきましたが、今回は一同が共に集うことの大切さや、創立136周年を迎える本学院の建学の精神に基づき各校部で行われている教育の取り組みを共有するため、コロナ感染対策に一層の注意を払いながら対面で実施をしました。

プログラムにおいては、まず開会礼拝で三谷高康院長のメッセージがあり、広島の地におけるキリスト教主義学校『広島女学院の建学の精神』が持つ意味や位置づけ、社会的使命について認識を共有しました。前田美和子先生(大学)の司会で行われたシンポジウム第1部では、「広島女学院の建学の精神と各校部の取り組み」について、大学は澤村雅史先生、幼稚園は古重歌織先生、中・高は刀祢館美也子先生より発題が行われました。シンポジウム第1部の後には、中・高の長谷川史先生によるパイプオルガンミニコンサートが行われ、憩いのひとときが与えられました。

シンポジウム第2部では、第1部の発題者全員と三谷院長が登場され、休憩中に寄せられた質問に対して応答することで、各校部における取り組みや新たな協力の可能性について共感を分かち合うことができました。そして三谷院長より終わりの辞を用いて総括が行われ、最後に閉会祈禱を持ち御恵みの中、無事に全学院研修会を終えることができました。



3年ぶりの対面開催で実施

◆ 2022年度ゲース学術奨励賞受賞者

人文学部	国際英語学科	平田 美月
	日本文化学科	岡本 安未可
人間生活学部	生活デザイン学科	久保田 紗羅
	管理栄養学科	廳 有里
	児童教育学科	山口 友菜



被爆七十七年広島女学院平和祈念式

被爆七十七年広島女学院平和祈念式を8月6日に執り行いました。三谷院長は式辞で、「このような惨事を繰り返してはならないという思いは、この真理を語り続けてきた広島・長崎の卓越した精神性の現れである」「プログラムに掲載されている原子爆弾犠牲者教職員・学生・生徒の一人ひとりの名前は、77年経過した今でも決して忘れないという誓いの名簿だ」と述べました。追悼のことばで竹内同窓会長は、「非戦闘員である女性や子ども、学生、赤ちゃんなどが犠牲になった無差別で非人道的な広島・長崎の惨禍を忘れることなく、語り継ぐことが私達の使命だ」と述べ、学生代表の中田愛美さん(大学国際英語学科2年)は「この時代に生まれ広島女学院で学んでいるからこそ、被爆の実情を深く学び後世に伝えること、平和を追い求めていくことを誓う。」と追悼しました。(総務課 内海 香苗)



中田愛美さん(国際英語学科2年)が力強く誓う

同窓会からのお知らせ

2023 ホームカミングデーのお知らせ

テーマ 隣人を愛せよ ～つなぐ真心～

- 日時/2023年4月22日(土) 10:30～13:30
- 場所/リーガロイヤルホテル広島
- 会費/10,000円

広島女学院平和祈念式

- 日時/2023年8月6日(日) 10:00～
- 場所/広島女学院中学高等学校 ゲースホール

同窓会バザー(中高文化祭)

- 日時/2023年11月3日(祝・金)
- 場所/ゲースホール前テント(バザー)

同窓会館(Café アイリス)

献品は一年を通じ受け付けております。
同窓会事務局までご連絡ください。

バイブルクラス(聖書を学ぶ会)

- 日時/毎月第4水曜日 10:30～11:30 (8月休会)
- 場所/広島流川教会 小礼拝堂
- 内容/「ルカによる福音書」を中心にした学びと交わり
- 講師/広島流川教会 向井希夫牧師

お問い合わせ / 同窓会事務局

TEL・FAX 082-221-1059

(月)～(金) 10:00～15:00

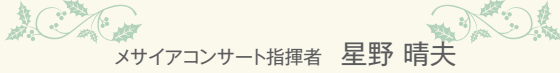
こちらから
アクセス
いただけます



クリスマス特集



第36回クリスマスコンサート・メサイア



メサイアコンサート指揮者 星野 晴夫

12月18日(日)、新型コロナ蔓延による中止が重なり3年ぶりとなった「広島女学院第36回クリスマスコンサート・THE MESSIAH」がゲーンホールにおいて開催されました。ステージには99名の合唱(内、学生と高校生25名)と49名のオーケストラ(同14名)、ソリストとしてソプラノの乗松恵美さん、アルトの八川浩子さん、テノールの藤井雄介さん、バスの平田昌久さんの各氏が並びました。午後5時、三谷高康院長の挨拶に始まりヘンデル作曲「メサイア」より29曲を演奏、渡辺信一校長による献金感謝の祈りと讃美歌「きよこの夜」の演奏で幕を閉じました。

今回は感染対策として、時間短縮のための演奏曲目削減、合唱団員を例年の約3分の2に縮小して管弦楽も含めマスク着用の演奏、観客数を半数以下に制限しての事前申込制、また演奏中の通・換気実施等条件も多く、しかも感染が年末にかけて拡大傾向にあり、外的にはマイナス要素の多い準備期間でした。一方で出演者の方々は久しぶりの公演実現に向けて意欲的に練習に参加され、回を重ねるごとに仕上がりに手ごたえを感じていました。出演者の中には昨年と一昨年に本学院大学・高校を卒業し(在学中はコロナ禍で通常の学院生活が送れませんでした)、在学中メサイア演奏会出演を心待ちにしながら叶わなかった方たちがいました。また、リモートで練習に加わられた方々、遠隔地から新幹線で何度も足を運ばれた方を始め、熱心に練習に臨んでくださる方々を前に、指揮を受け持つ立場としてもその思いに応えられるものを作り上げたいと強く感じていました。

本番当日は換気のため冷たい外気が入るステージでしたが、そんな悪条件を全く感じさせない、合唱とオーケストラが一体となった熱のこもった演奏になったと感じています。また、ソリストの方々も

テキストの聖書の言葉とヘンデルの音楽を深く読み込んだ素晴らしい歌唱を披露してくださいました。これらが一つとなって、聴衆の皆様へヘンデルが表わそうとした聖書の世界を感じ取って頂けたら、救い主イエスの降誕を祝うクリスマスの季節に開催されるコンサートとして意義のあるものになったのではないかと思います。

例年、満席になるほどの会場は今回やむを得ず制限をかけることになり、楽しみにして下さる方々のために実況(ライブ)と演奏会後の保存映像(アーカイブ)をYouTubeで配信するという初の試みを行いました。ライブには993回、アーカイブには1カ月で3,900回を超えるアクセスがあり、メサイア再開を喜んでいる、友人にも知らせたい、久しぶりに同窓生同志で女学院を思い出してうれしかった等の声が届き、関係者を喜ばせてくれました。

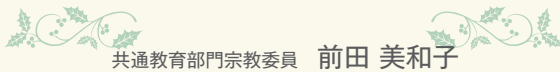
さて、三谷院長はプログラム挨拶の中で、「…イエス・キリストの生涯の出来事から最後の審判に至る壮大なドラマは、悲しい現実を、根本から変える神の偉大さ、深い愛を伝えていきます。今宵、私たちはヘンデルの調べに心を留め、喜びと希望を決して失わない人生を歩みたく願うものです。…」と述べておられます。学院の創始者、砂本貞吉先生はアメリカの地でキリスト(=メサイア)との出会いを通して与えられた希望と喜びを伝えるため、広島に戻り本学院の基を築かれました。その理念は、「之(聖書)を抜きにしては本当の教育は出来ないと信じて居る。」(百年史より)との神の愛に裏打ちされたものでした。ヘンデルのメサイアは救い主イエスを通して表されたその神の愛を世に示す作品であり、その演奏は広島女学院の教育理念の土台を世に示す、本学院の信仰告白でもあると感じています。



3年ぶりに開催したメサイア

広島女学院大学

第22回クリスマスツリー点火音楽礼拝



共通教育部門宗教委員 前田 美和子

11月28日、第22回クリスマスツリー点火音楽礼拝が行われました。今年もコロナ禍でゲーン幼稚園や地域の皆さんとご一緒することはできませんでしたが、学生、教職員約50名が集いました。

聖書朗読と祈祷、聖歌隊による特別賛美の後、院長・学長 三谷高康先生、管理栄養学科 石長孝二郎先生、児童教育学科4年 工藤雪乃さんが点火スイッチを押して下さり、灯った美しい光に、自然と拍手が起こりました。寒空の下ではありましたが、寒さを忘れる、心あたたまる礼拝でした。



クリスマスツリー点火音楽礼拝

広島女学院大学

クリスマス音楽礼拝



共通教育部門宗教委員 前田 美和子

12月20日の「キリスト教の時間」では、A.O.カルテット(弦楽四重奏)の皆さんと田尻健さん(テノール)をお迎えし、クリスマス音楽礼拝が行われました。

奏でられる音楽に、参加者はみな、クリスマスの喜びと恵みを全身で感じました。また大学宗教委員長・宗教センター長の澤村雅史先生のメッセージから、心が乱されるニュースに溢れている今、「あなたは今、どこにいるのか」と問われました。参加者一人ひとり、救い主のお生まれになった意味を静かに思うひと時となりました。



クリスマス音楽礼拝



クリスマス特集



中学・高校クリスマス諸行事

宗教教育委員会 刀祢館 美也子

中学の讃美歌コンクールは、クリスマスへの準備として行われます。クラス一同が心を合わせた美しいハーモニーと共に、様々な讃美歌を通してクリスマスの喜びや恵みが深く心に沁みました。

中学クリスマス礼拝は、讃美歌コンクール各学年課題曲の合唱を3年ぶりに行うことができました。クラスごとの合唱以上にボリュームあるハーモニーがホールに響きわたり、2階席から降り注ぐ中3のOh Holy Nightがまさに天使の歌声のようでした。YWCA部のハンドベル、合唱部の合唱、放送部の聖書朗読で生徒たちが奉仕してくれました。

高校クリスマス礼拝は、昨年に引き続き、コロナ禍でのハレルヤ合唱を実現するため、上野学園ホールで行われました。吹奏楽部、オーケストラ同好会の演奏で、全校生徒による力強いハレルヤが響き渡りました。宗教委員の司会、放送部の聖書朗読、音楽部の合唱、奏楽などをそれぞれ生徒たちが担当しました。

夜の女学院クリスマスは、今年も一般公開は控え、在校生と保護者、卒業生、受験を考えている小学生と保護者に限り、事前申し込み制で実施しましたが、ホール1階席がほぼ埋まる参加者がありました。高校宗教委員・高校放送部・中高YWCA部、高校生有志による聖歌隊が協力してくれました。

中学、高校、女学院クリスマスと、3回の礼拝メッセージは、立野泰博牧師(日本福音ルーテル広島教会)が担当して下さいました。

礼拝の中でパレスチナ支援・東日本大震災支援活動に触れられながら、イエスの誕生には、母マリアと父ヨセフの苦難と悲しみがあったが、それを乗り越えさせたのは「神、我らと共に在ます」という約束であったこと、それこそがクリスマスの真の意味であると語って下さいました。

クリスマス礼拝では、この1年間の恵みを感謝し、その恵みを、助けを必要とする隣人と分かち合うために献金を捧げ、NGOや福



中学クリスマス礼拝



高校クリスマス礼拝(上野学園ホールにて)



女学院クリスマス(夜の部)

祉施設などにお送りしています。中高生・教職員・女学院クリスマスの席上献金を合わせて322,006円の献金が捧げられました。コロナ禍や戦争などで私たちよりいっそう厳しい状況下にある方々へ、皆様の思いと共に送らせていただきます。

幼稚園クリスマス諸行事

教諭 白石 恵史

園庭が落ち葉の絨毯で彩られると、幼稚園では、教会暦より少し早くアドベントに入ります。子どもたちと1本目の蠟燭を見つめながら礼拝を守り、「クリスマスって何だろう?」と思いを巡らせます。週毎に蠟燭が増え、クリスマスのお話や歌にたくさんふれ、毎日少しずつ飾り付けを楽しみ、アドベントカレンダーをめくり、クリスマスの日を待ち望んで過ごします。

クリスマス礼拝は、年中少児は聖歌隊となり、年長児は降誕劇を演じる形で捧げます。年長の各クラスで、マリアやヨセフ、天使や羊飼い等、一人の子が色々な役を演じつつアドベントの日々を過ごしますが、クリスマス礼拝当日の役を決める時には、様々なドラマがあります。友だちと演じたい役が重なり、誰か1人に決めなければならない時には心が揺れ動きます。その役への特別な思いを抱いている子、年中児の時から役を決めていた子、どの役も大事であることを理解し他の役に回る子など、一人ひとりが納得するまでに何日も時を要します。実はそこに、もうすでにクリスマスが訪れています。また、マイクを握り、舞台上上がり、演じ、表現する時にも、不安や緊張と向き合い、仲間の支えにより乗り越えてい

く姿があります。そのようなドラマを経て迎えた礼拝では、園児と保護者の皆様とクリスマスの喜びを分かち合うことができますが、その日を迎えるまでに、神様の御業が働いていると感じます。

子どもたちの楽しみの一つとして、おうちの人への秘密のプレゼント制作があります。神様からの恵みである園庭やぼうけんのもりの自然物を活かして、ツリーのオブジェ、首飾りなどを一生懸命作りました。誰かに喜んでほしいという気持ちを形にする活動はとても温かく豊かなものです。戦争や貧困、災害などの苦しい状況にあるどのような人、場所であっても神様の豊かなお守りがありますよう心から願っています。



羊飼いへの御告げ

法人

◆ 寄附

1月10日受付分まで。
(順不同・敬称略)

広島女学院のために

- 300,000円 匿名
- 30,000円 宇都宮マサ子
- 26,937円 高林 真澄
- 10,000円 匿名
- 1,000円 岡崎 健一

広島女学院大学のために

- 589,662円 広島女学院大学英文学会
- 50,000円 佐藤木綿子
- 50,000円 匿名
- 31,832円 石田美智子
- 8,979円 桐木 建始

広島女学院大学の教育のために

- 173,600円 United Women in Faith

広島女学院メソジスト女性局奨学金 給付型として

- 500,000円 United Women in Faith

中高教育充実のため

- 500,000円 田中 裕人
- 100,000円 匿名
- 30,000円 山地佐和子

中高宗教教育充実のため

- 5,000円 一森 雅彦

幼稚園教育充実のため

- 30,000円 匿名

教育研究施設・設備の充実

- 50,000円 匿名
- 20,000円 宮下 諭
- 10,000円 清川 努
- 5,000円 尾上さやか

奨学金制度の充実

- 100,000円 井上富紀子

7/31被爆ヴァイオリン謝礼として

- 10,000円 日本キリスト教団 広島流川教会

被爆ヴァイオリンの維持・修繕のために

- 10,000円 さいき文化ホール事業実行委員会

研究継続に伴う研究費として

- 886,681円 故 鎌田 英明

ゲーンズ奨学金として

- 800,000円 広島女学院同窓会

ガウン・帽子・フード保管料として

- 285,065円 広島女学院大学協力会

VISHバスケットシステム年間利用料として

- 118,800円 広島女学院ゲーンズ幼稚園
みぎわ会

中高教育充実のため

- 琴2張 原 邦子 石田加代子

イベント用テント

- パパテント 中高お父さん有志

生活デザイン学科実習のために

- ファーバーカステルポリクロモス色鉛筆
120色セット 株式会社トータテ都市開発
代表取締役社長 川西 亮平

中高茶道部へ

- 茶道具(平水差、水差、茶碗7個、なつめ、茶杓2つ)
小鶴 史恵

寄贈品として

- 折りたたみベッド 河越 宏之

寄贈図書として

- ラジオ中学生の基礎英語レベル1-2、
ラジオ中高生の基礎英語in English各12冊
廣文館
- 「河あり」 浦川 律子
- 「Dream tomorrow」
片山美代子
- 「あの夏の日」 西村 弘
- 「パウロと律法」 澤村 雅史
- 「女性たちのフランス革命」
岡本 明

◆ 人事

退職

- 久保田哲司 (大学総合学生支援センター学生課主任) 2022.4.30付
- 野村千奈美 (法人事務局・大学経営企画部会計・
管財課技術職員) 2022.12.31付

採用

- 瀧ヶ平悠史 准教授 (人間生活学部) 2022.9.1付

◆ 訃報

- 平原 幸枝 様 (名誉教授) 2022.4.14
- 漆谷三紀雄 様 (元大学技術職員) 2022.9.8
- 島末 宏海 様 (元中高理科教諭) 2022.10.18
- 玉理 英治 様 (元大学職員) 2022.12.26

お詫びと訂正

第196号15頁に掲載しました「寄附」について、誤りがありましたのでお詫びして訂正させていただきます。

14行目：(正) 20,000円 山地佐和子
(誤) 10,000円 山地佐和子

18行目：(正) 1,000,000円 広島女学院大学協力会
(誤) 100,000円 広島女学院大学協力会

編集後記

2022年度から広島女学院報は春号・冬号の年2回の発刊となり、第197号が冬号にあたります。本号では、幼中高大のSDGs活動やクリスマスの行事について特集記事としてまとめておりますので、広島女学院全体の活動内容を楽しみながらご高覧いただけたら幸いです。(大学 土谷 佳弘)